



# ぼくにだけ見えるジェシカ

ノリス作 はしもとめぐみ 橋本 恵 訳 とく ましよてん 徳間書店

冬の寒い日、フランシスが外のベンチに座っていると、夏服姿の女の子がやってきた。不思議に思って声をかけると、女の子は驚いて「わたしが見えるの?」という。だれにも見えない存在だった幽霊のジェシカ。学校で孤立し、ひとりでいることの多かったフランシスに、とつぜん幽霊の相棒ができたのだ。やがて知りあった、アンディとローランドにもジェシカが見えることがわかる。同じ悩みを抱えた三人は、ともにすすすうちに、ジェシカがこの世にとどまっている理由を知る。

